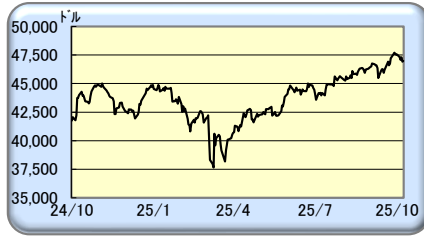


1. 日米株式と円/ドルの推移

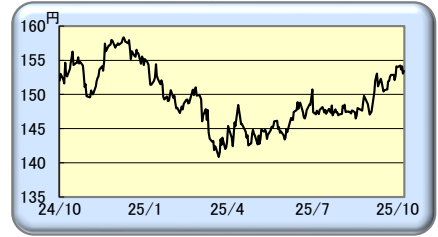
<日本株(日経平均)>



<米国株(NYダウ)>



<円/ドル>



(注)チャートは過去1年

	単位	2024/12/31	2025/10/31	2025/11/7	過去3年高値		過去3年安値	
		(前年末)	(前月末)	(前週末)	水準	日付	水準	日付
日経平均	円	39,894.54	52,411.34	50,276.37	52,636.87	2025/11/4	25,661.89	2023/1/4
NYダウ	ドル	42,544.22	47,562.87	46,987.10	48,040.64	2025/10/29	31,429.82	2023/3/15
円/ドル	円	157.20	153.99	153.42	161.95	2024/7/3	127.23	2023/1/16

過去3年高値・安値はザラ場ベース / 当社が信頼できると判断した情報に基づき作成

2. 日本株市場 先週の振り返り

~ 米国の雇用情勢に対する懸念の高まりなどを受けて下落 ~

先週の日本株市場は、日経平均が▲2,134.97円(▲4.07%)、TOPIXが▲32.98ポイント(▲0.99%)となり、米国の雇用情勢に対する懸念の高まりなどを受けて下落しました。業種別でみるとサービス業、水産・農林業、その他製品などの19業種が上昇した一方、情報・通信業、海運業、電気機器など14業種が下落しました。

4日は、半導体関連中心に決算発表で好調だった銘柄へ物色が集まったものの、為替が円高進行したことが上値抑制に働き、3日ぶりに下落しました。5日は、前日の米国株市場がハイテク株中心に下落したことを受けて、先月までの株価上昇を牽引していたAI(人工知能)や半導体関連などに売りが広がり、2日続落となりました。6日は、米政府閉鎖の影響で米雇用統計が未公表の中、米ADP社が発表した10月の全米雇用リポートで非農業部門の雇用者数が市場予想を上回ったことを受けて、米国の雇用情勢に対する懸念が後退したことなどから、3日ぶりに反発しました。7日は、前日に米調査会社チャレンジャー・グレイ・アンド・クリスマスが発表した10月の政府と企業の人員削減計画数が増加したことを受け米国の雇用情勢に対する懸念が高まり、ハイテク株中心に米国株市場が下落した流れを引き継ぎ、国内のAI関連銘柄にも売りが広がり、反落して引けました。

3. 今週の主な予定

日程	曜日	国・地域	項目	期間	前回	
11月10日	Mon	日本	日銀金融政策決定会合における主な意見(10月29日、30日開催分)			
			景気一致指数	9月	112.8	
			景気先行CI指数	9月	107.0	
11月11日	Tue	日本	景気ウォッチャー調査現状	10月	47.1	
		ドイツ	景気ウォッチャー調査先行き	10月	48.5	
		日本	ZEW期待指数	11月	39.3	
11月13日	Thu	日本	企業物価指数(前年比)	10月	+2.7%	
		欧州	鉱工業生産(前月比)	9月	▲1.2%	
		米国	CPI(消費者物価指数)(除食品・エネルギー/前年比)	10月	+3.0%	
11月14日	Fri	日本	第3次産業活動指数(前月比)	9月	▲0.4%	
		中国	鉱工業生産(年初来/前年比)	10月	+6.2%	
		米国	小売売上高(年初来/前年比)	10月	+4.5%	
		米国	小売売上高(除自動車)(前月比)	10月	—	
		米国	PPI(生産者物価指数)(除食品・エネルギー/前年比)	10月	—	

注意: 米国の政府機関の一部閉鎖に伴い、米国経済指標の発表日が変更になる可能性があります。

決算発表予定 他	国内	決算発表:	11/10
			11/10 日清食品HD、スバル、吉河電工、住友金属、フジHD、資生堂、三菱地所、ふくおかF、めざきFG 11/11 川崎重工業、ソニーG、鹿島、サントリー、大成建設、コサセ、光通信、出光興産、キリンHD、東急、ネクソ、センソー、三井金属、セコム、住友不動産、ソフトバンクG、楽天銀、ユー・エス・エス、JX金属、リそなHD、ダイク、TBSHD 11/12 アサヒGHD、エネオスHD、アシックス、いすゞ、プリンス、トヨタマイクロ、オリックス、テルモ、エムスリー、ハンパシ、NIPPON EXPRESSホールディングス、三井住友TG 11/13 大和ハウス、SMC、西武HD、キオクシアHD、レゾナックHD、明治HD、ImpeX、荏原、楽天G、横浜フィナンシャルグループ、マツコ、コナロHD、TOPPANホールディングス、三菱伊勢丹 11/14 ソニーFG、東レ、T&Dホールディングス、横浜ゴム、第一生命HD、日本ペイトHD、大日本印刷、京都フィナンシャルグループ、みずほFG、サイバーエージェント、ゆうちょ銀行、日本郵政、オープンハウスG、三菱HCC、かんぽ生命、電通グループ、三菱UFJフィナンシャルグループ、三井住友FG
海外	決算発表:	11/10 コアウィーブ 11/11 ネビウス・グループ 11/12 シスコシステムズ、バイエル、鴻海精密工業 11/13 ウォルト・ディズニー、アプライド・マテリアルズ、JDDソフトコム、シーメンス、メルク、テンセント 11/14 アリアンツ	

※ 当社が信頼できると判断した情報に基づき作成

4. 日本株市場 今週の見通し

~ AI関連銘柄に対する過熱感が意識されるものの、良好な決算内容を背景に底堅く推移 ~

今週の日本株市場は、AI関連銘柄に対する過熱感が意識されるものの、良好な決算内容を背景に底堅く推移するとみえます。足元では、世界的な株価上昇をけん引してきたAI関連銘柄について、巨額投資への警戒感や株価の過熱感が意識され、上昇の勢いが鈍っています。国内でも、先月末までの日経平均株価の大幅上昇の主因となったこれらの銘柄には高値警戒感が強く、しばらくは下押し材料に働くものとみえます。一方で、終盤に差し掛かりつつある国内主要企業の7-9月期決算発表表においては、為替が円安気味で推移したことや米国の関税政策の不透明感が後退したことなどから、通期会社計画を上方修正する企業が多くみられ、これまで警戒されていた企業業績に対する期待が高まっています。これらのことから、AI関連銘柄以外の企業については、良好な決算を好感した買いが入ることが期待され、日本株市場全体では底堅く推移するとみえます。なお、米連邦政府機関の一部閉鎖が過去最長となり航空便の減便など実体経済への悪影響が強まっています。上院民主党が妥協策を提示するなど議論が進展すればプラス材料視される反面、一段と長期化懸念が強まれば米景気の悪化懸念が強まる可能性があり、注視しています。その他の注目材料として、日本では11日の景気ウォッチャー調査、14日の第3次産業活動指数、欧州では13日の鉱工業生産、ドイツでは11日のZEW期待指数、中国では14日の鉱工業生産などが挙げられます。



朝日ライフ アセットマネジメント URL: <https://www.alamco.co.jp>

商号等: 朝日ライフ アセットマネジメント株式会社
 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第301号
 加入協会: 一般社団法人投資信託協会/一般社団法人日本投資顧問業協会

本資料は、朝日ライフ アセットマネジメント(以下、「当社」といいます。))が、投資の参考となる情報提供を目的として作成したもので、特定の商品に対する投資勧誘を意図するものではありません。本資料は当社が信頼できると判断した情報に基づき作成しておりますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。資料中に記載されたグラフ、数値等は過去の実績であり、将来の運用成果等を保証するものではありません。また、コメントについては作成日時点での判断であり、将来予告なく変わることがあります。最終的な投資決定はお客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。